

沖縄奪還・安保粉碎・日帝打倒!

# 12月15~17全学連臨時全国大会

七〇年六月安保決戦の大爆発で  
日帝のアジア侵略宣言を葬れ!

全都・全国のすべての学友諸君!

十一月決戦は打ち抜かれた!

わが金学連はいま、次の三つのメルクマールをもって、十一月決戦勝利と内乱的死闘の七〇年代にむけての不動の確信<sup>1</sup>を語ることができる。すなわち、十一月決戦は、①全共闘軍団・反敵軍団を中心<sup>2</sup>に、広汎な民衆をひきつれて本格的武装闘争を貫徹し、②反戦派労働者の本格的登場をかちとり、③本土・沖縄の革命的<sup>3</sup>一体化をなしどけることによって佐藤の七〇年政策<sup>4</sup>ベテラン的「七二年返還」論を大破旋におとしこめた、ということである。

日帝のアジア侵略<sup>5</sup>「日米共同声明」

民衆の十一月決戦への総決起に恐れおののいた佐藤は、ヘリコプターでこそそんと米国に逃げ出した。

十一月決戦を打ち抜かれた佐藤に残された道は唯ひとつ、真正面からの反革命攻撃である。「日米共同声明」こそは、その反革命攻撃の宣言である。すなわち、ベテラン的「七二年返還」論をふりかざしながら、①沖縄の水久核基地化、日米共同前線基地化、②安保の実質的大改定<sup>6</sup>（本土の全面的侵略基地化）を七〇年から七二年にかけて強行し、日帝のアジア侵略を公然と行なおうといいうものである。

七〇年六月安保大決戦の大爆発で「日帝のアジア侵略宣言」を葬れ!

佐藤は、日帝のアジア侵略を宣言した、がしかし、それは、あくまで宣言であり、実際にそれを成しうるか否かは、七〇年・七二年の政治過程に一切がかかるっている。いまこそ、我々は、十一月決戦を上回る第二、第三の決戦をもって、日帝のアジア侵略宣言を葬らねばならない。

金学連大会の任務は、①十一月決戦を教訓化し、②沖縄奪還・安保粉碎・日帝打倒の戦略を深化させ、③一月三月三里塚決戦・沖縄奪還闘争の大爆発と、七〇年六月安保決戦にむけての不抜の闘闘体制を打ち固めることである。そして、いまこそ、「第二民青」革マルの反革命集団を粉碎し全国全共闘の強化を通して、大学を安保粉碎・日帝打倒の砦として打ち固め、金学連の大進撃を開始せねばならない。すべての学友は、金学連臨時全国大会に総結集せよ!!

金学連中央執行委員会

委員長 金山克己

スケジュール

15~17日 全学連臨時全国大会

十五日 品川公会堂（国電大井町下車）

十六日 小金井公会堂（中央線武蔵小金井下車）

十七日 法政大学（国電飯田橋下車）

いずれも九時開場、十時開会

連絡先 法政大学経済学部自治会

五〇三一六二一〇二一七